

対象年度		令和 6年度		総合計画実施計画策定及び行政評価シート											
事務事業名		友愛メルヘン橋エレベーター整備事業（都市再生整備計画事業）						予算事業名		エレベーター整備事業費					
予 算 科 目		会計	01	款	項	目	事業	要求区分	根拠法令	都市再生特別措置法 建築基準法 道路法					
				08	03	07	2501	経常経費							
総合計画体系		住みたい・住み続けたい 安全・快適な都市を目指そう						事業の区分		主要事業					
		コンパクトで魅力あるまちづくり													
		計画的な市街地の形成						担当課係等		都市計画課 住宅公園係					
事業期間		継続 （令和 2年度～令和 6年度）													
【めざす姿（意図・どのような状態になるのか）】								【事業開始のきっかけや他市の状況など】							
結城駅に架かる自由通路である友愛メルヘン橋は、これまでバリアフリー化されていなかったため、南北のヒト、商業、観光などの流動の妨げとなっていた。メルヘン橋にエレベーターを設置することにより、人の流動を活性化させ、市街地の回遊を楽しめる空間を提供する。								市民要望の他、観光客等に対する利便性の向上にも寄与できることから事業化							
【手段（事業内容・どのようなことを行うのか）】								【対象（だれに対して・何に対して行うのか）】							
都市再生整備計画事業【高質空間形成施設】 R2 友愛メルヘン橋エレベーター設置基本設計 R2(繰)友愛メルヘン橋エレベーター設置整備実施設計 R3・4 友愛メルヘン橋エレベーター整備工事								市民及び観光客等を対象とした整備							
								【事業をとりまく環境の変化】 エレベーターを設置しバリアフリー化することで、結城駅を利用し訪れる人及びメルヘン橋の利用率も増加することが予想され、観光・商業の活性化に寄与することができる。							
【令和 6年度 事業内容】				【令和 7年度 事業内容】				【令和 8年度 事業内容】							
R4事業完了により、R5から施設管理経費に移行（エレベーター保守管理）															

■事業費			R04年度	R05年度			
財 源 内 訳	国	庫 支 出 金	62,000	0			
	県	支 出 金	0	0			
	地	方 債	79,500	0			
	そ	の 他	0	0			
	一	般 財 源	8,870	0			
歳 入 計 （ 千 円 ）			150,370	0			
歳 出 内 訳	節 （ 番 号 ＋ 名 称 ）		金 額 （ 千 円 ）	金 額 （ 千 円 ）			
	12	委託料	4,840	0			
	14	工事請負費	145,530	0			
歳 出 計 （ 千 円 ） （ A ）			150,370	0			
伸 び 率 （ % ）				皆減			
備 考	総合計画 6 4 ページ						

令和 4年度行政評価シート

■指標

種類	指 標 名	単 位		R04年度	R05年度	R06年度
活動 指標	エレベーター設置台数（自由通路）	基	目標	1.00	0.00	0.00
			実績	1.00	0.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00
成果 指標	設置要望の実現	件	目標	1.00	0.00	0.00
			実績	1.00	0.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00

■事業評価

必要性	事業の必要性	A 必要性は高い	結城駅南北のヒト・商業・観光などの流動とともに、バリアフリー解消策の一つとして必要と判断した。
妥当性	実施主体の妥当性	A 妥当である	友愛メルヘン橋は市の管理する公共施設であり、市が事業主体となることは妥当と判断した。
	手段の妥当性	A 妥当である	国の定める都市再生整備計画に沿う事業として整備計画を立てた。
効率性	コストの効率性・人員効率	A 改善の余地はない	国の交付金や市債等の計画を立てて活用した。
公平性	受益者の偏り	A 偏りは見られない	市民や観光客だれもが使える施設であり、偏りはない。
有効性	成果向上の余地	A 上がっている	エレベーター整備はバリアフリー解消策の一つとして、利便性の向上が期待できる。
進捗度	事業の進捗	A 順調である	都市再生整備計画事業として令和4年度に整備完了した。
総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください			
エレベーターの整備により、利便性の向上が期待できる。 一方、メンテナンスは欠かせず、部品の劣化による交換が必要になるなど、恒常的な負担は避けられない。			
対応策提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか			
整備工事が完了したので、今後は施設管理経費に移行。			

■方向性

1 次評価（1 次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☐ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☒ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置	
方向性の具体的内容 令和4年度整備工事完了し、令和5年3月13日より供用開始。	
2 次評価（2 次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☐ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置	
企画調整会議の意見・考え方（1 次評価者と同じ場合も記入） 上記評価のとおり	